

第433回白石市議会定例会 一般質問通告書

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
1	15番 佐藤 秀行	<p>1. 「伝統産業の継承」について</p> <p>こけし村のリノベーション事業も終了し、6月に落成式を迎えました。中央に新たに多目的スペースが設けられ、今までのスペースに加え、更に50人からの絵付等が可能になりました。また、工房も一棟設けられ、現在、後継者育成事業の2名が工人の指導を受けながら修業を積んでいる状況です。</p> <p>これまで、3人のこけし工人が誕生しました。来年1月2日のこけし村ではえある初挽きに、その中の一人の20代の女性工人が選ばれました。大変名誉なことであると思います。</p> <p>また、こけし村は6月からの半年間で入村者数も昨年同期に比べ、約900人多い約4,500人が来館しております。その他、絵付についても500人を超え、その中の3人に1人は、アメリカ、台湾、そして中国などの訪日観光客です。</p> <p>このようにこけし村は、交流人口の拡大と地域全体の収益の向上にも大きな役割を果たし、貢献しているものと思われます。市の財政状況が厳しいのもわかります。指定管理料の見直しについても、順次必要に応じて考えていかなければならない問題だとも思います。それには何より、地元こけし工人のさらなる協力が不可欠だと思います。来年の3月に新たに工人が1名誕生します。今後、修業を続けるのは、1人だけになるわけです。弥治郎こけし工人の後継者育成を目的とした伝統こけし工人後継者育成事業を、今後とも継続していくことが重要であると考えます。</p> <p>このことについて次の点をお伺いします。</p> <p>(1) この現状について、率直な市長の思いを伺います。</p> <p>(2) 今後の取り組みについて、どのようにお考えなのか市長の考えを伺います。</p>	市長
		<p>2. 「大学との交流・連携」について</p> <p>今年6月から、小原、白川、南の各中学校で、仙台市の東北生活文化大学による出前授業が行われています。これは、美術系大学の専門的授業を活用し、生徒に表現することを通して、感性を高める授業を企画したもので、新聞でも取り上げられました。大学の講師、教授などが直接各中学校に来校し、洋画、陶芸、彫刻、版画などの授業を行うもので、生徒からも好評を得ているものです。また、現在寿丸屋敷で開催されている白石和紙展に、東北生活文化大学の学生が白石和紙で制作したスマホケースが6点ほど展示されています。現在このように、東北生活文化大学と白石市は大変密接なそして良好な関係にあると思います。</p> <p>また、仙台大学は地域連携事業として、健康福祉の分野でJAみやぎ仙南などと連携し、地域に根付いた</p>	市長 教育長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
1	15番 佐藤 秀行	<p>取り組みとして、白石市民を巻き込みながら健康体操指導などを行っています。</p> <p>このように、各大学と、また大学生との交流を一過性のものとせず、このような機会を契機として、今後ともスポーツ、文化、芸術、教育などの分野で交流を深めていくことが、交流人口の拡大、地域の活性化にも大きく貢献できるのではないかと思います。また、白石の魅力を発信することができる絶好の機会だと考えます。若い人の力、学生の力がいろいろな意味で必要だと思います。</p> <p>このことについて次の点をお伺いします。</p> <p>(1) 出前授業を行うきっかけ、実際授業をごらんになっての教育長の見解をお伺いします。</p> <p>(2) 現在、本市が交流・提携をしている大学とその取り組み状況についてお伺いします。</p> <p>(3) 大学との交流・連携について、市長の考え、今後の取り組みについてお伺いします。</p> <p>3. 「学力向上プロジェクト事業」について</p> <p>学校の役割は「子供たちに力をつける」ことであり、学力もその一つであると考えます。子供たちの学力向上の一つの手立てとして、「学力・学習状況調査」を、埼玉県と共同して平成31年4月に行うとしています。</p> <p>児童・生徒の学力や学習に関する事項等で把握することで、教育施策や指導の工夫の改善を図り、児童・生徒一人一人の学力を確実に伸ばすことを目的としています。一人一人の子供に対し、小学4年生から中学3年生まで年一回継続して行うことにより、「一人一人の子供の学力の経年変化などを継続して把握」することができるものとしています。</p> <p>このことについて次の点をお伺いします。</p> <p>(1) この事業に至った経緯、またこの事業にかける思いを伺います。</p> <p>(2) 昨年度まで行っていた学力調査、そして、全国学力・学習状況調査との違いをお伺いします。</p> <p>(3) 平成27年度に開始した埼玉県の学力・学習状況調査において、この4年間を振り返っての成果と課題は何かお伺いします。</p>	市長 教育長
2	16番 松野 久郎	<p>1. 行財政改革について</p> <p>「白石市行財政改革推進計画(集中改革プラン)〔第3次改訂版〕」の計画期間は平成30年度までの3年間となっています。今年度も残すところわずかとなり、来年度予算編成に取り組んでいることと思いますが、基本方針の「安定的な財政基盤の確立」についての取り組み状況と実績及び効果について伺います。</p> <p>(1) 「自主財源の確保」について、本市の市税収入では平成29年度は平成28年度より若干上回ったものの、地方交付税は減少傾向の状況です。今後は労働</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
2	16番 松野久郎	<p>力人口の減少や実質景気の低迷が懸念されることから、急激な一般財源の減少や人口減少による税収は、年々厳しくなるものと考えます。本年度までの取り組み状況と実績及び今後の見通しについて伺います。</p> <p>(2) 「経費の節減と合理化」について、経常経費の徹底的な削減に取り組み、全職員がコストダウンの意識を持ち、徹底した物件費等経常経費の削減や改善に取り組んできましたが、その成果と実績について伺います。</p> <p>(3) 「予算の重点的配分」について、財政状況の周知徹底を職員に対して図り、事業の必要性・妥当性を検証し、事業の選択と集中を図ってきたと思います。その成果と実績について伺います。</p> <p>(4) 一般財源が減少傾向となる中、今後の取り組むべき事業として、優先順位の考え方について市長の所見を伺います。</p>	市長
		<p>2. 森林環境譲与税（仮称）について</p> <p>平成30年度税制改正の大綱において、森林環境税（仮称）と森林環境譲与税（仮称）の創設が決まり、森林環境譲与税（仮称）は平成31年度から自治体への譲与が開始されることになっていることを踏まえ質問いたします。</p> <p>(1) 本市における譲与基準等の割合はどのようになっているのか、また、譲与税額が幾らと見ているのか伺います。</p> <p>(2) 市町村等の森林環境譲与税（仮称）の用途を公表しなければならないことになっていますが、用途内容について伺います。</p>	市長
		<p>3. 有害鳥獣被害対策とイノシシに特化した駆除及び生息状況調査について</p> <p>本市は、今年度も有害鳥獣対策として予算を計上し、駆除を進めてきましたが、本年11月1日から平成31年2月28日まで、一般社団法人宮城県猟友会が実施するイノシシのわな猟及び銃猟による確保、駆除及び生息状況調査が行われています。この事業とこれまでの有害鳥獣対策事業について伺います。</p> <p>(1) これまでのイノシシに対しての有害鳥獣対策事業と捕獲、駆除及び生息状況調査との違いについて伺います。</p> <p>(2) 有害鳥獣対策の実施隊への捕獲費用（1頭当たり）と捕獲、駆除及び生息状況調査の費用（1頭当たり）と解体場での費用について、どのような条件で行われているのか伺います。</p> <p>(3) これまでのイノシシの捕獲状況について伺います。</p> <p>(4) サルの追い払いや駆除について、第432回定例会</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
2	16番 松野久郎	<p>で質問いたしましたが、そこで現在は、鳥獣被害対策実施隊により、春・秋2回ずつ、銃による追い払いや捕獲を行っているとの答弁をいただきました。猟友会の皆様からは、移動時の燃料や銃弾の費用がかかり、追い払いに協力するのも大変という声が多く聞かれました。捕獲をすると幾らかの費用が出るとのことでしたが、その費用は幾らなのか、出動を依頼したときの費用を検討できないか伺います。</p> <p>(5) また、サルの追い払いに特化した銃弾の費用の補助をする必要があると考えますが、いかがか伺います。</p> <p>4. 小学校の統合後の状況及び中学校統廃合の準備状況について</p> <p>齋川小学校統合後の児童の様子と南中学校及び白川中学校の統廃合準備状況について伺います。</p> <p>(1) 齋川小学校が統合され9カ月になりますが、スクールバスでの通学の様子や児童の学校での様子、特に困ったことはないのか、学校生活で問題点がないのか伺います。</p> <p>(2) 南中学校、白川中学校について、各専門部会からの報告や提言等の内容、それを踏まえた準備委員会での決定事項や課題等について伺います。</p> <p>(3) 齋川小学校の跡地利用について、具体的な今後のスケジュールがどこまでできたのか伺います。</p> <p>(4) 南中学校、白川中学校の跡地利用について、今後の検討の進め方について伺います。</p>	市長 教育長
3	11番 四竈英夫	<p>1. 新たな米生産対策（政策）について</p> <p>政府は、今年度から米の減反政策(生産調整)の転換を行いました。米の生産数量の配分にかかわらず、生産数量目標は生産者団体みずからが立てることになりました。</p> <p>また、米の直接支払交付金(10アール当たり7,500円)も廃止され、農家の収入は減収しました。さらに、生産調整の公平化を図るため続けられてきた「とも補償」制度も廃止されました。</p> <p>その結果、過剰作付に対するペナルティーがなくなり、生産過剰による米価の下落が懸念されました。こうした現状を踏まえて、次の点についてお伺いいたします。</p> <p>(1) 新しい政策の下での米の作付状況はどうだったのかお伺いいたします。</p> <p>(2) 新しい政策に対する農家の反応はいかがだったのでしょうか。</p> <p>(3) 米の安定的生産を続けるために、今後どのような方策をとるお考えかお伺いいたします。</p> <p>(4) 今後、農業経営者の高齢化が進み経営が困難になった場合、本市の農業を守り安定的な農産物の生産</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
3	11番 四 竈 英 夫	<p>と農地を守るための対策は、どのようにお考えかお伺いいたします。</p> <p>(5) 今年、宮城県では米の新品種「だて正夢」を売り出しました。現在、本市管内ではひとめぼれを栽培する農家が多いと思いますが、こうした新しい品種が開発された場合の対応は、どのようにされるのかお伺いいたします。</p> <p>また、本市のブランド米として栽培の拡大に取り組まれているササニシキとの兼ね合いはどうなるのかお伺いいたします。</p>	市長
		<p>2. 小原温泉遊歩道の整備について</p> <p>小原温泉遊歩道は、小原温泉に沿って流れる白石川の清流と兩岸を彩る新緑や紅葉など、四季折々の景観を眺めながら散策する遊歩道で、長年にわたり多くの観光客に愛され親しまれてきました。また、その下流には「碧玉溪」と呼ばれる名勝もあり、本市の観光スポットとなっています。しかし、遊歩道は川面との高低差が余りないため、大雨による増水で流されたり、土砂に埋まったりする被害を受けることがしばしばありました。そして、川の反対側の斜面は切り立った崖に面しているため、落石などの対策も必要です。しかしながら、本市の重要な観光資源である小原温泉遊歩道を最大限に活用することは不可欠であると思います。</p> <p>総務産業建設常任委員会では、11月に富山県魚津市と富山市に行政視察に行つてまいりました。魚津市では、インバウンド(訪日観光客)の誘客に積極的に取り組んでおりました。本市といたしましても、観光客の増加による交流人口の拡大を図ることが急務であると痛感しました。</p> <p>そこで、次のことについてお伺いいたします。</p> <p>(1) 遊歩道にかかっている吊橋が通行止めになっているので、通行可能にして観光客の要望に応じてほしいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>(2) 遊歩道の途中に湯つぼを楽しむ場所がありましたが、再現するお考えはないのでしょうか、お伺いいたします。</p> <p>(3) 国道113号から小原温泉に入って、スパッシュランドに至るまでの区間は市道になっています。普段は交通量が少ないのですが、市民バスや七ヶ宿町民バスのルートになっています。</p> <p>この区間は道幅も狭く、両側から木の枝が覆い被さるようになっていて、視界の妨げになることもあります。また、秋には木の葉が大量に落ちて、道幅が狭くなり交通の支障になることがあります。加えて、大風が吹いたときには、折れた枯れ枝が散乱し危険を感じる時があります。さらに、大雨の時には山側から土砂が道路に流れこんだり、落石があつ</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
3	11番 四 竈 英 夫	<p>たりして通行の妨げになっていることもあります。 したがって、大雨、強風、落葉の時期などには巡視して、不慮の事故を防ぎ、交通に支障のないよう対策を講じていただきたいと思います。お考えを伺います。</p>	市 長
4	7番 管 野 恭 子	<p>1. 学校給食について 平成30年11月10日付の河北新報において、宮城県内の学校給食の栄養量が摂取基準を満たしていない旨の報道がされている。それによると、県内14市のうち、摂取基準に達していない栄養素があるのは仙台市のほか、少なくとも8市に及ぶとあり、その中に本市も含まれている。本市については、ビタミンB1の充足率は小学校78.6%、中学校78.0%であり、炊飯を委託しているため、米代だけでなく、輸送費の上昇の影響も受け、副食費に使える予算が減り、栄養量が確保できない旨の内容であった。この報道をどう受け止め、対応を検討しようとしているのか伺う。</p>	市 長 教 育 長
		<p>2. 学校施設・体育館へのエアコン設置推進について 第197回臨時国会において成立した2018年度第1次補正予算では、学校の全普通教室を対象にエアコン設置の予算が盛り込まれ、学校の安全対策が前進した。 今後は、児童・生徒の体育の場であり、また、災害時には、地域住民の避難所ともなる学校体育館への設置推進を図っていかねばならない。自然災害が多発する昨今、本市の学校体育館へのエアコン設置を早期に検討をしていくべきと考えるが見解を伺う。</p>	市 長 教 育 長
		<p>3. 住宅への蓄電池設置について 一般家庭に太陽光発電を普及する目的で創設された「余剰電力買取制度」が2019年11月で10年を迎える。同制度は家庭で使いきれなかった太陽光発電を10年間固定価格で電力会社に売電できる仕組みである。買い取り終了は、来年度に約50万世帯、2023年度までには約160万世帯に達する見込みである。 その後の予想される選択肢は、①大手電力会社・新電力との再契約、②発電可能な昼間だけ自家消費、③自家消費後に余った電力を蓄電池にためて夜間も利用などである。注目は、自家消費がどの程度進むのかである。 太陽光など再生エネルギーは、地域で電力の消費と生産を行う「地産地消」に適した分散型電源であり、温暖化防止の一助になるとも期待されている。 課題は蓄電池1台設置するに当たり、工事代を含め、約150万円と負担は軽くないことである。 再生エネルギーを地域に根付かせていく意義の大きいことから、住宅への蓄電池設置へ補助金支給を実施している自治体がふえている。</p>	市 長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
4	7番 管野恭子	本市においても、ぜひ取り組みを検討すべき事業と考えるが、見解を伺う。	市長
5	1番 佐藤龍彦	1. 学校給食について 給食は学校生活の中で欠かせないものとなっています。子供たちにとっては楽しみの一つであること以上に、成長過程の大事な時期の食事として、とても重要な役割を担っています。 また、最近では全国的に子供の貧困問題や両親が多忙であるなどの理由から1日のうちで唯一、栄養のバランスのとれた食事となっている児童・生徒もいるという現実もあります。 本市の給食においては、地元食材（白石米、チンゲンサイ、ネギ、白石温麺など）を活用した給食を提供するなど地産地消にも取り組まれています。 しかし、最近の異常気象や自然災害、原油高などさまざまな要因による食材の高騰により、国や市の定める栄養量の摂取基準を下回り、子供たちが十分な栄養を摂取できていない「栄養不足」に陥っている実態が新聞で報じられていました。 栄養量の摂取基準は、学校給食法に基づき文部科学省が策定をした、健康の増進や食育の推進に望ましいとされる栄養の量の中で、エネルギーやビタミン類、鉄、カルシウムなど主な栄養素について、1日に必要な摂取量から昼食に必要な分を換算し、その多くが1日の必要量の3分の1から40%に設定されているようです。8月から一部が改正され、各自治体で地域事情などを考慮し、弾力的に設定できるようになりました。 そのような中、県内の多くの自治体で給食の栄養素が不足している状況があると報道され、本市においても充足していない栄養素が目立つとされていました。 そこで次の点についてお伺いいたします。 (1) 本市の給食が栄養の不足している状態となっている理由について伺う。 (2) 本市の給食はいつ頃から栄養が不足している状態となっていたのか伺う。 (3) 給食の栄養が不足している状態をどのように考えているのか伺う。 (4) 給食の栄養の充実を図るための対策は考えているのか伺う。 (5) 給食の栄養の充実を図るために市が給食費を補助する考えはないのか伺う。	教育長
		2. いじめ・不登校問題について 先日、文部科学省の2017年度の児童生徒問題行動・不登校調査で、宮城県の1,000人当たりの不登校児童生徒数が2年連続で全国ワースト1位、いじめ認知件数が全国3位となったことが公表されました。 また、全国で2017年度に認知したいじめについても、	教育長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
5	1番 佐藤龍彦	<p>前年度より9万1,235件増の41万4,378件となり過去最多を更新しました。</p> <p>文部科学省によると早期対応に向けて軽微なものも含める方針が浸透し、積極把握が進んだと分析しているようです。</p> <p>しかし、心身に大きな被害を受ける重大事態も474件あり、前年比78件増となり、児童・生徒の自殺も250人で、そのうち10人がいじめに遭っていたことも確認されています。</p> <p>いじめの内容別では、冷やかしやからかいなどが最多で62.3%、最近増加傾向となっているインターネット上や会員制交流サイト（SNS）などでの誹謗中傷が3.0%となり、過去最多となったことも報告されています。</p> <p>不登校についても小中学生が前年度より1万348人増の14万4,031人となり、過去最多となりました。</p> <p>そこで、お聞きいたします。</p> <p>(1) 本市のいじめや不登校の現状について伺う。</p> <p>(2) 本市はいじめや不登校の児童・生徒に対し、どのように対応しているのか伺う。</p> <p>(3) 今後、本市はいじめや不登校の児童・生徒にどのように向き合っていく考えなのか伺う。</p>	教育長
		<p>3. 就学援助について</p> <p>第425回定例会及び第429回定例会でも質問いたしましたが、小中学校の就学援助、新入学児童生徒学用品費の入学前支給について再度、お聞きいたします。</p> <p>また、10月から生活保護基準が引き下げられたことにより、その影響が就学援助に及んでくることも懸念されています。</p> <p>そこで次の点について、お聞きいたします。</p> <p>(1) 本市において生活保護基準の引き下げにより就学援助の対象から外れた事例はあるのか伺う。</p> <p>(2) 就学援助の新入学学用品費の入学前支給について県内の状況について伺う。</p> <p>(3) 新入学児童生徒学用品費の入学前支給を実施する考えはないのか伺う。</p>	教育長
6	2番 保科善一郎	<p>1. 市内小中学校の統廃合と廃校跡地利用について</p> <p>平成30年4月に斎川小学校と白石第二小学校が統合し、平成31年4月の南中学校と白石中学校、白川中学校と東中学校が統合することになり、それぞれの地域に設置された統合準備委員会の活動を通して、保護者や地域の方々に理解を得ながら粛々と進められております。それに伴い、廃校活用という新たな課題が発生しております。</p> <p>私どもの会派及び総務産業建設常任委員会は、先般、行政視察として登別市と富山市を調査してまいりました。登別市については、文化施設として再利用の方法</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
6	2番 保科善一郎	<p>を見出し、遺跡・考古学をテーマとした学校再生施設登別文化交流館として再利用されております。</p> <p>廃校施設等の活用により、同規模の建物を新築する場合と比べて費用の節約が期待でき、再利用という形の地域貢献が達成できるとしております。活用が図られず、遊休施設となってしまっているものも多く存在している中で、さまざまな用途に活用されております。</p> <p>主な転用事例としては、公民館などの社会教育施設や体育館などの社会体育施設といった公営施設への転用が多く見られますが、中には宿泊施設や美術館、創業支援施設などとして活用して廃校を生まれ変わらせた事例も存在しています。</p> <p>また、富山市においては、セーフ&環境スマートモデル街区として太陽光発電を取り入れたネット・ゼロ・エネルギータウンとして学校跡地が活用されております。</p> <p>今、全国で年間約500校が廃校になっていると言われております。廃校を負の遺産とするだけでなく、人口減少社会における過疎地域のビジネスチャンスと捉えることも地域再生の方向と考え質問いたします。</p> <p>(1) 現在、廃校跡地の利用方法についてどのように取り組まれようとしているのか伺います。</p> <p>(2) 現在の公共施設の中で廃校跡地へ移設可能な物件はないのか、リノベーション施設として整理が検討できるものがないのか伺います。</p> <p>(3) 市長は9月定例会での一般質問に対して、12年後の2030年までの本市の人口動態から、これから先さらに子供の数が減っていくことが想定されるとして、極論になってしまうと言いながら、統廃合というよりも小学校と中学校が1校ずつでも足りるのではないかという発言をされております。大変重要な部分でありますので、改めて真意を伺います。</p> <p>さらに、今後の統廃合の進め方について伺います。</p>	市長
		<p>2. 農産物等販売施設について</p> <p>農産物等販売施設が建築中であります。農産物等販売施設については、道の駅と同等の直売所として地場農産物を販売し、地域農業の活性化に資するものとして期待と関心が高まっています。農産物直売所等を整備する場合には、市場調査の上、事業規模、事業品目を定めることが一般的であります。本件については、市場調査の内容も生産者の意見もあまり見えてこないのではないのかと思われます。</p> <p>農産物等販売施設について、収支計画書はあるのか、売上高、指定管理体制、赤字経営になった場合の対応など精査して望んでほしいと思います。</p> <p>先行して開設したこじゅうろうキッズランドについては、市が策定した地域再生計画によると収支試算では、施設運営が一定程度軌道に乗ると想定する平成32</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
6	2番 保科善一郎	<p>年度における利用者数を、他県の類似施設利用状況を調査した上で、利用者数はその半分程度、6割が市民以外を見込む等、合理的に想定して年間利用料収入を19,536千円と見込んでおります。施設運営費については、人件費・光熱水費・保険料・保守点検費用・事業経費等を適切に試算し、年間38,915千円と試算しております。したがって、年間施設の維持管理経費の5割強を利用料収入の充当で賄うことを想定し、残余は、連携する農商工施設からの応分の負担のほか、広域連携交流の促進に伴う市営観光交流施設の収入増による市歳出（指定管理委託料）の減額、白石市公共施設等総合管理計画策定に基づく公共施設の統廃合・縮小による経費削減効果等で市一般財源を確保すること等により、平成34年度以降も安定的・自立的な運営が持続できると考えているとしております。</p> <p>(1) 魅力ある農産物等直売所を目指して、管理運営体制を確保するため管理条例を制定していますが、必要な体制を整備するために細部にわたり検討し、安定した経営を目指すことから、出荷者の確保に努めることが肝要と思います。その体制はどのようになっているのか伺います。また、具体的に何をメインに売り込むのか伺います。</p> <p>(2) 安定的な生産出荷計画を実現するために、生産対策が必要だと思っておりますが、計画はあるのか、具体的な支援体制について伺います。</p>	市長
7	13番 菊地忠久	<p>1. 幼児教育・保育の無償化について</p> <p>政府は、「幼児教育・保育の無償化」を2019年10月から始めることとしました。「幼児教育・保育の無償化」は、認可保育所や幼稚園、認定こども園に通う全ての3～5歳児と、住民税非課税世帯の0～2歳児の保育料を無償化し、認可外施設についても無償化の対象とするとされています。</p> <p>当初、この無償化の費用は全額国費で負担すると考えられていましたが、消費税増税に伴い、地方自治体にも負担を求める方針が示されました。実際の地方負担は2021年4月からですが、それ以降は認可保育所・認可外保育所、ともに市町村は4分の1ずつ負担しなければなりません。</p> <p>そこで「幼児教育・保育の無償化」による自治体負担への影響と保育が、大きく変わることが考えられるため、今後の本市の保育について、以下の点を伺います。</p> <p>(1) 今年度と同じ保育園児数、幼稚園児数と仮定した場合、本市の無償化に伴う負担は幾らになり、消費税増税による本市への歳入増はどの程度になると見込まれるか伺います。</p> <p>(2) 共同通信社の調査によると、無償化になることから、全国の約4割の私立幼稚園が来年度から保育料</p>	市長 教育長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
7	13番 菊地忠久	<p>の値上げをしております。値上げしても保育料無償化で保護者負担が変わらないことから、幼稚園への収入をふやすためと考えられますが、これでは保護者の負担減の目的の意味が薄れることとなります。市は、私立幼稚園等の保育料の動向を把握しているのか伺います。</p> <p>(3) 本市は例年、年度当初での待機児童はゼロとなっておりますが、年度途中になると待機児童が出てくる状況にあります。現在の待機児童の状況について伺います。</p> <p>(4) これまで保育園への入園を見送っていた方も無償化によって、入園を希望することが予想されます。実際、2016年度から無償化を実施した兵庫県明石市では、保育ニーズが高まり、むしろ待機児童が増加したとのこと。無償化により、本市でも保育ニーズが高まると考えられますが、所見を伺います。</p> <p>(5) 保育ニーズの高まりにより、新たに認可外保育施設やベビーシッター等への新規参入者があらわれることも考えられます。認可外保育施設の質をどのように担保するのが課題になりますが、市はどのように担保すると考えていますか。特に、指導監督基準がなく、家庭内で保育を行うベビーシッターについて、どのように質を担保すると考えているのか伺います。</p> <p>(6) 無償化よりも保育園や定員をふやすことや保育士などの処遇改善を求める関係者の意見も多く、財源の地方負担等、今回の無償化には課題が多いと考えますが、「幼児教育・保育の無償化」に対する所見を伺います。</p>	市長 教育長
		<p>2. 白石市中学生議会について</p> <p>去る11月4日、市議会主催で初めて「白石市中学生議会」を開催しました。少子高齢化やそれに伴う人口減少、駅前商店街活性化、空き家対策、医療・福祉、観光振興等、自分たちの住むまちの課題について問題意識を持ってよく考え、さまざまな質問や提言がなされました。また、市政や議会について身近に感じていただく機会にもなり、一定の成果は得られたのではないかと考えます。</p> <p>そこで、中学生議会の実施を受けて、以下の点について伺います。</p> <p>(1) 中学生議会の感想を伺います。</p> <p>(2) 白石三白について、中学生議員から「本当の魅力を知らないのが現実かもしれない。白石三白を守っていくことに力を注ぐべきだ」と提言されました。全くそのとおりであると考えます。</p> <p>そこで、本市の伝統産業であり、特産品である「白石三白」をこれまで以上に守り、広め、次世代へ継承していくことは、本市の魅力向上や市民の白石に</p>	市長 教育長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
7	13番 菊地忠久	<p>対する愛着・誇りである「シビックプライド」の向上につながると考えますが、所見を伺います。</p>	市長 教育長
		<p>3. キャッシュレス化推進について 本年6月の第431回定例会において、民間企業と連携して本市に決済用端末を普及させ、キャッシュレス化を推進すべき趣旨の質問をいたしました。それに対し山田市長は「各地の実証実験の状況を見きわめた上で、まずは個人店舗や小規模店舗における決済端末の操作方法への不安解消や、決済に係る手数料への理解を深めながら、取り組みに向けた研究を進めてまいりたいと考えております」とご答弁されました。 政府は先日、2019年10月に予定する消費増税への経済対策として、クレジットカードなどを使ってキャッシュレス決済した際に5%のポイント還元を検討する考えを表明しました。キャッシュレス決済によるポイント還元は中小小売店での購入分を対象とする方針で、クレジットカードや電子マネー、QRコードなどでの決済が対象となり、これによって、中小零細店の支援やキャッシュレス推進も図れる狙いもあるようです。 そこで以下の点について伺います。 (1) 本市における消費増税とそれに伴う影響についてどのように分析されているか伺います。 (2) 改めて民間企業と連携し、本市のキャッシュレス化を推進すべきであると考えますが、所見を伺います。</p>	市長
8	9番 大野栄光	<p>1. 本市の中山間地のインフラについて 面積が広い本市は、自然環境に恵まれた中山間地が多い。生活圏も広く、近所隣も遠く、かつて本市に「くらし日本一のまちづくり」というフレーズがあった。現市政も「住みたいまち、住み続けたいまち」を提唱しているが、郊外や中山間地に住む人達にはどのように受け止められているのか。 近年、イノシシの繁殖により水路や路肩が壊されている。未舗装の道路や劣化した長年の舗装道では、高齢化に伴い免許返納した人たちの電動カート走行にも危険が感じられる。我慢と辛抱している市民のためにも早急な対応を望むが、市長の見解を伺います。</p>	市長
		<p>2. 水田の大型化について 先日まであった田んぼの稲も刈り取りが終わり、一安心といったところ。農家の水田経営離れは毎年進んでいるが、近年は特に加速が著しい。高齢化と後継者不足、高額な農機具更新と米価格の低迷など、魅力を失いつつある。危機感を感じて団塊の世代を前後して経営に頑張っている。大型機械を投入して作業を行っている。 本市の水田構造は、30アールと15アールが主で50年</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
8	9番 大野栄光	<p>前の構想で整地された。現在は作業システムも大型化され個人委託も多く、生産ロスが経営の足かせとなっている。圃場面積が50アールから1ヘクタールが必要と思われる。本市の将来を見据えた構造改善事業についてお伺いしたい。</p>	市長
		<p>3. 農家の作物被害について 今年も全国的に地震、台風や低気圧と自然災害が多発した。冷害や豪雨による水害、強風による風害と第1次産業は自然相手の仕事ゆえ、人力ではどうにも対応することができない。しかし、農家の方たちは強く、毎年節が来れば作付に勤しむ。種を蒔き管理し収穫を待つ、そんな生活プロセスも種代、肥料管理労力、大型機械の投入と多額の費用を要する。それが一瞬にして壊滅状態となる。今年も昨年につき、山麓地区の畜産農家は飼料作物であるコーンが台風により多大な被害をこうむり、経営に打撃を受けた。全ては自己責任と言えるのだろうか。本市の畜産業を守るために行政としての応援のすべはないものか、市長のご所見を伺います。</p>	市長
9	3番 伊藤勝美	<p>1. 市長の政治姿勢について 平成30年度の市政運営に対する基本方針について、山田市長は、「市民の笑顔あふれる白石」をつくり上げてまいる所存であると、力強く堂々と所信表明を述べられております。市長に就任されてはや2年になりますが、市民の期待に応えられるよう、日々、全力で市政運営に取り組んでいることに対しまして、敬意を表したいと思えます。 (1) 市長に就任されて、2年を迎えた現在の心境をお聞かせください。 (2) 先般、各地区において「自治会長と市長の地区懇談会」が開催されたようですが、地区からの意見・要望等がどのような内容であったのか、また、それらに対してどのような対応をなさったのか、地区ごとにお聞かせください。 (3) 市長は、市勢発展のため、県外へ精力的に出張されているようですが、内容、成果等についてお聞かせください。 (4) 本年12月6日、「十分な審議がなされていない」という批判も多い中、改正水道法が成立しました。今後は水道事業の民営化が可能になったわけですが、海外では「再公営化」となった失敗例も数多く、不安は尽きないものと思えます。今回の水道法改正について市長の見解をお聞かせください。</p>	市長
		<p>2. 平成31年度予算編成方針について 現在、市当局におかれましては、予算編成の最中だと思いますが、言うまでもなく、予算は首長、つまり、</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
9	3番 伊藤勝美	<p>山田裕一市長の考え方や政策が反映されたものであり、山田市長がこの白石市をどのようにしたいかというのが如実にあらわれる、いわば我がまち白石市の設計書というべきものと考えます。</p> <p>そして、健全な財政運営を維持し、安定した行政運営の確保を図ることで、市民福祉の向上、住民サービスの向上、市民満足を高め、「市民の笑顔あふれる白石」をつくっていくための予算ということになると思います。</p> <p>国の平成31年度地方財政計画が示されていない中で、この予算編成であり、不透明な要素があることは十分理解しておりますが、今後の財政状況を見通す中で、平成31年度当初予算の見込み・想定額等について質問をいたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 自治体にとって予算は重要であり、またその予算を編成するための方針も重要ではないかと思いますが、本市の財政状況および今後の見通しについての見解をお聞かせください。 (2) 平成31年度当初予算編成方針について、また、当初予算編成の大まかな方向性についてお聞かせください。 (3) 編成方針に基づく主要施策、いわゆる事業の柱等についてお聞かせください。 (4) 想定している予算規模、歳入の主要な財源である市民税と地方交付税の見込み、歳出についての見込みをどのように推察されているのかお聞かせください。 (5) 市債発行の想定額についてお聞かせください。 (6) 自主財源の確保が重要となってきますが、平成31年度における自主財源確保の特効薬的目論見があれば伺います。 (7) 今後、財政調整基金が厳しい状況になると予想されますが、平成31年度当初予算策定にどのような影響・考察がなされるのか、また、財政調整基金の中長期的展望と対策についての見解をお聞かせください。 (8) 平成31年度で新規の大型事業があれば伺います。また、特に力を入れたい事業、もしくは新しい事業の企画がありましたら、お聞かせください。 (9) 毎年2月議会に、議案として提出される当初予算については、議員に配布される「予算に関する説明書」で説明が行われております。 <p>しかしながら、記載されている各種事業についての詳細が、不足しているのではないかと感じております。そこで、予算として計上されている各種事業ごとに、款・項・目・本年度と前年度の比較・予算の財源内訳・節・説明を記載し、別冊にして提示していただきたいと思います。見解をお聞かせください。</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
9	3番 伊藤勝美	<p>3. 森林経営管理法について</p> <p>本年5月に、所有者が不明確であったり、手入れ不足になったりしている森林について、適正な経営管理を進めるための「森林経営管理法」が成立しております。</p> <p>来年4月1日に施行され、この法律では、森林所有者の経営管理責任が明確化されたこと、それから、森林所有者がみずから経営管理できない場合には市町村が経営管理の委託を受けること、そのうち林業経営に適した森林は意欲と能力のある林業経営者に再委託すること、一方、経営に適さない森林は市町村が管理することなどが定められております。</p> <p>国の「平成30年度税制改正の大綱」では、現在仮称の段階ではありますが、新たに森林環境税および森林環境譲与税が創設され、「森林環境税は、2024年度から、住民税に1,000円を上乗せして課税する」「森林環境譲与税は、2019年度から、市町村および都道府県へ譲与する」となっています。また、森林環境譲与税の用途については、「市町村及び都道府県は、森林環境譲与税の用途を公表しなければならない」としています。</p> <p>今後、この法律により、市町村の役割がさらに大きくなり、森林・林業行政の大転換とも言える変換が生じてくるのではないかと考えております。</p> <p>(1) 白石市の森林と林業の現状についてお聞かせください。</p> <p>(2) 県民税としての「みやぎ環境税」や森林経営管理法における森林環境譲与税にあっては、それぞれの目的および用途についてお聞かせください。</p> <p>(3) 両方の税が森林整備の財源となることを鑑みれば、用途が重複するようなことが生じるのではないかと懸念されます。</p> <p>そこで、今回の譲与税の創設により、県民税を財源とする事業は今後どのように予想されるのか、見解をお聞かせください。</p> <p>(4) 来年度から交付される森林環境譲与税において、予定される事業内容等についてお聞かせください。</p> <p>(5) 「森林経営管理法案」における「意欲と能力のある林業経営者」とはどのような方々を想定されているのか、お聞かせください。</p> <p>(6) 経営に適さない森林は、市町村が管理することなどが定められておりますが、どのような管理をすることになるのか、お聞かせください。</p> <p>(7) 森林所有者には伐採と、その後の造林の実施に責任を持つよう定めており、森林所有者がみずから経営管理できない場合には、市町村に経営管理を委託させる内容になっております。</p> <p>委託に同意しない所有者に対しては、どのような措置が取られるのでしょうか、お聞かせください。</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
9	3番 伊藤勝美	(8) 次年度からの事業実施体制等に向けて、本市が強い当事者意識を持ち、関係する方々に親切・丁寧な説明をして取り組んでいただきたいと思います。また、森林環境税等にとらわれず、市として今後の森林振興についてどのような施策を行おうとしているのか見解をお聞かせください。	市長
10	18番 佐久間儀郎	<p>1. いじめの現状と対策について</p> <p>文部科学省が、本年10月25日に公表した「児童生徒問題行動・不登校調査」によると、全国の国公立小中高、特別支援学校が2017年度に認知した「いじめ」は、前年度より9万1,235件増の41万4,378件で、過去最多を更新しました。宮城県は、昨年度と同じ水準で推移し、1,000人当りのいじめ認知件数は全国で3番目に多く、また不登校児童生徒数は最多となり、いかに子供を取り巻く教育環境の改善が進んでいないか、現状が浮き彫りになりました。</p> <p>いじめについての文部科学省の分析は、「早期対応に向け軽微なものも含める方針が浸透し、積極把握が進んだもの」としています。しかし、いじめ対策推進法が定めている骨折など、心身に大きな被害を受ける「重大事態」はふえています。</p> <p>昨年4月、仙台市折立中学校2年の男子生徒が、教諭から体罰を受けた上、いじめを訴えて自殺した事案のように、いじめに耐えかねて自殺するといった悲惨な結果となった事例等が報道されています。</p> <p>子供の心や体に深刻な被害をもたらすいじめは、子供の権利を侵害するものです。このいじめという問題については、学校だけで解決できるものではなく、学校、家庭、企業、地域社会等の協力が不可欠であり、学校と地域が連携して市民の総力を上げて、市民と行政が一体となって活動を展開していく必要があります。いじめを防止し、次代を担う子供が健やかに成長することができる環境を実現することは、社会全体で取り組むべき重要な課題と考えます。こうした観点から、以下の質問をいたします。</p> <p>(1) 今年度の「児童生徒問題行動・不登校調査」結果について感想をお聞かせください。</p> <p>(2) 宮城県のいじめ認知件数が全国で3番目に多いことから推して、本市の小・中学校にいじめが一件もないといったことは考えられません。本市の実態を把握されていると思いますので、いじめ認知件数、昨年比の増減など、現状について詳細をお聞かせください。</p> <p>(3) 本市のいじめ対策とその効果について、どのように評価しておられるのかをお聞かせください。</p> <p>(4) いじめ防止対策推進法の規定に基づいて、白石市いじめ問題対策連絡協議会等条例が制定されていますので、本市は専門家を配置する体制づくりができ</p>	市長 教育長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
10	18番 佐久間 儀 郎	<p>ていると思いますが、現在は配置されているのでしょうか。</p> <p>(5) 小中高のいじめ防止が論じられていますが、子供が集団生活する初めての場である幼稚園・保育園における取り組みを加える必要はないのかどうか、所見をお聞かせください。</p> <p>(6) 本市でも、「いじめの防止に関する条例」を制定することが必要ではないのかと考えますが、ご所見をお聞かせください。</p>	市 長 教 育 長
		<p>2. 児童・生徒の表彰条例について</p> <p>去る11月18日、青少年のための白石市民会議主催、白石市教育委員会主管、白石市自治会連合会など15団体の後援によって「白石市青少年健全育成市民のつどい」が開催されました。多くの市民が参加され、会場の中央公民館大ホールは、青少年の健全育成によせる温かい眼差しにあふれていました。次第の最後に、「白石市の次の世代を担う青少年が、心身共に健康で、正しい判断力と豊かな心を持ち、社会に貢献できるようになることは、白石市民の強い願いです」に始まる大会宣言が、大きな拍手によって、全会一致で採択されました。</p> <p>当日は、絵画ポスター入賞者の児童・生徒6人が市長からお褒めの表彰を受けています。この様子を見て、想起したのは、「昔から子供は叱るより褒めて育てよ」という言い伝えでした。叱られることは当人にとって決して嬉しいことではなく、場合によっては反抗心を助長することもあります。逆に褒められるということは悪い気がしないし、褒められたこと以外のことでも自律・自戒につながるのではないかと思います。</p> <p>人間は誰でもよい面を持っているもので、その面を伸ばすことが健全育成に効果が大であろうと考えますし、また地域ぐるみで子供を健全に育てようとする意識づけになり、地域の大人同士が連携することにもつながるのではないのでしょうか。</p> <p>そこで、私は児童・生徒の優れた個性を発見し、これを表彰する条例を制定してはいかがかと提言するものであります。</p> <p>例えば困った人を助けたとか、善行をなしたもの、学習、スポーツ活動等で他の模範たる児童・生徒には、地域住民や学校長が市長に推薦し、市長はこれを表彰する。</p> <p>児童・生徒の優れた個性を発見し、これを顕彰するための制度化について、市長はいかがお考えになりますか、所信をお尋ねします。教育的視点から見て、教育長のお考えもお伺いします。</p>	市 長 教 育 長